

たいという産総研の方針から福井市内で開催予定。

- ・2027つくば大会：会期は2027年9月5日（日）～7日（火）。会場：つくば国際会議場。

- 専門部会連絡委員会（尾上）
特になし
- 国際交流委員会（辻森）
特になし
- 地質標準化委員会（内野）
特になし
- 学術戦略WG（尾上）
特になし
- ショートコースWG（山口）
特になし
- 編集出版部会（小宮・辻森）
 - 地質学雑誌編集委員会（小宮）
 - ・編集状況報告（2025年9月4日現在）
- 2025年投稿論文：33（昨年比-6）【内訳】総説1（和文1）、論説18（和文16、英文2）、報告2（和文2）、レター2（和文2）、ノート2（和文2）、フォト1（和文1）、巡査案内書7
査読中24、受理済み6、入稿・校正中8、公開22
 - ・今後、次期編集委員長の選定は執行理事会内で行うことを検討していく。
 - ・将来的にカテゴリや投稿規定の見直しも必要との意見あり。
- Island Arc編集委員会（辻森）
 - ・今年度の公表数が現時点で32編と昨年度より多いペース。
- 企画出版委員会（小宮）
 - ・「大地と人の物語－地質学でよみとく日本の伝承」が6月に刊行済。
- 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）
 - 地学教育委員会（岩井）
 - 特になし
 - 地質技術者教育委員会（加藤）
 - ・地質系業界説明会には40の団体が出席、現状で16名の学生が事前参加登録。まだ少ないので、学生への宣伝をお願いしたい。
 - ・地球・資源分野JABEE委員会より情報交換会（11/27開催）開催案内
 - 生涯教育委員会（矢部）
 - 特になし
 - 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）
 - ・今年度の御嶽山は無事終了した。長野県のNHKでも報道された。
 - 地質の日（矢部）
 - 特になし
- その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織
 - 利益相反マネジメント委員会（亀高）
 - 特になし
 - 若手育成事業検討WG（内野）
 - 特になし
 - 表彰制度検討WG（亀高）
 - 特になし
 - 理事会の下に設置される委員会
 - ジオパーク支援委員会（矢部）
 - 特になし

- 地学オリンピック支援委員会（坂口）
 - ・「地球わくわく未来ガイド」への広告掲載案内があり、例年同様掲載の予定。（協賛団体掲載料無料）。
- 支部長連絡会議（杉田）
 - ・シニア会員活躍の推進、学術大会の運営費削減及び計画への行事委員会の関与、Teamsストレージの活用、役員選挙などについて、熊本大会で情報共有・意見交換する。
- 地質災害委員会（松田）
 - 特になし
- 名誉会員推薦委員会（星）
 - 特になし
- 各賞選考委員会（亀高）
 - ・次期選考委員長がまだ決定していないので、第1回理事会後に関係者で集まり協議する。
- ジェンダー・ダイバーシティ委員会（山口）
 - 特になし
- 法務委員会（亀高）
 - 特になし
- 若手活動運営委員会（星）
 - 特になし
- 研究委員会
 - 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）
 - 特になし
 - 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
 - 特になし

審議事項

- 休会制度の新設について（総務委員会）

産休・育休などで一時期学会活動を休止する会員のために、休会制度（休会中の会費は免除）の導入を検討していく。休会期間の単位、複数年パック会費の学生会員の扱い、運営規則の変更、新会員システムへの対応など、今後詳細を詰めてゆく。制度設計には事務局の負担を極力増やさないように考慮する。
- 理事会審議事項、資料の確認

監事コメント

（山本監事）休会制度は、退会の防止につながるので、ぜひ前向きに進めて欲しい。
 （岩部監事）出産・育児を機に退会する女性は一定数存在するので、休会制度設立の検討は進めてもらいたい。費用の高騰が続いている学術大会について、今後学会本部も積極的に運営に関わって行って欲しい。

以上
2025年10月15日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）山路 敦
署名人 執行理事 亀高正男

2025年度第4回執行理事会議事録

日程：2025年10月15日（水）18:30-20:00

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高 正男、内野隆之、内尾（保坂）優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口 飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

欠席：岩井雅夫

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

*前回25-03議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項（理事会報告の確認）

- 全体的報告
 - ・9/21付で2026年度代議員選挙および役員選挙の告示を行った。10/22～11/19に代議員立候補届けおよび正・副会長への立候補意思表明の受付を行う。
- 運営財政部会（加藤・細矢）
 - 総務委員会
 <共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
 - ・第63回アイソトープ・放射線研究発表会（26/7/8-7/10）への参画依頼があり、後援で承諾した。
 - ・蒲郡市生命の海科学館「第16回 地球惑星フォトコンテスト 入賞作品展（11/8-12/4）」共催依頼があり承諾した。
 - ・令和7年度石油技術協会秋季講演会（11/6）への協賛依頼があり、承諾した。なお、協力内容は『後援』に相当するが、申請内容の通り協賛として承諾した。
 - ・第67回藤原賞受賞候補者推薦依頼があつた（学会締切12/1）
 - ・山田科学振興財団より2026年度研究援助候補推薦依頼があつた（学会締切2026/2/6）。地質学会推薦枠3件。
 - ・大日本ダイヤコンサルタント（株）より役員変更のご連絡があつた。（代表取締役社長：原田政彦氏（留任）、副社長：齊藤哲郎氏（昇任）他）
- <会員>
 1. 今月の入会者：賛助会員1社、ジュニア会員1名、正会員4名（一般2、学生2）
賛助会員：東海窯業原料株式会社
ジュニア会員：畠田寛人
 - 正会員一般：辻林恭祐、渡辺憲彦※紹介者なし
 - 正会員学生（単年度1名、3年パック1名）白井完多、板橋幸助
2. 今月の退会者：なし
3. 今月の逝去者：3名
名誉会員（1）石崎国熙（逝去日：2025年10月4日）

正会員シニア（2）藤吉 瞭（逝去日：2025年5月12日）、原田正史（：2025年9月22日）

4. 2025年9月末会員数

賛助：40、名譽：33、ジュニア会員：7、正会員：3150〔内訳 一般1974、シニア885、学生会員291〕 合計 3230（昨年比-2）

<会計>

特になし

<その他>

・フィールドノート3000部を増刷し、販売を再開した（定価1200円（会員価格900円））。別途料金で名入れも可能。2026年3月末まで再販記念キャンペーンとして会員・非会員ともに800円で販売する。

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口・内尾）

・ホームページリニューアルについて、今年度末の完成に向け業者と打合せを進めている。

・Xのフォロワー数は3800名を超えた。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2025熊本大会：講演数は519件（山形大会とほぼ同数）。学生優秀発表賞は42件が決定した。巡査は8コース中7コースが実施された。

・今回に限ったことではないが、巡査案内書の公開が大会当日まで間に合わないケースが少なくないことは問題であり、改善に向けての具体策を検討する必要がある。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

特になし

3) 国際交流委員会（辻森）

特になし

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5) 学術戦略WG（尾上）

特になし

6) ショートコースWG（山口）

特になし

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

・編集状況報告（2025年10月15日現在）

2025年投稿論文：37（昨年比-10）〔内訳〕総説1（和文1）、論説18（和文16、英文2）、報告4（和文3、英文1）、レター2（和文2）、ノート4（和文4）、フォト1（和文1）、巡査案内書7

査読中24、受理済み6、入稿・校正中8、公開22

・新規特集号の申し込みがあった。タイトル「三浦半島北東部の上総層群下部（フェニおよびオルドバイ正磁極亜帯層準）の層序と古生物」（世話人：間嶋隆一（放送大）、野崎 篤（平塚市博）、中谷は崇（産総研）、瀬戸大暉（山形県博））担当編集委員等を割り当て、まもなく投稿開始予定。

2. Island Arc編集委員会（辻森）

編集事務局からはAssociate Editor増員の要望が挙がっている。

3. 企画出版委員会（小宮）

・（株）宝島社より『やばすぎ古生物図鑑』（日本地質学会監修、2019年発行、173ページ）の一部を利用した（合本）、新たに出版物『大絶滅！ きたいきもの図鑑』の作成が予定されている。監修者に対して校正依頼があり、現在校正作業中。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）

・熊本大会ジュニアセッション優秀賞1件、奨励賞4件が決定した。

2) 地質技術者教育委員会（加藤）

・熊本大会の地質系業界説明会では、40の企業・団体が参加し、98名の学生の参加があった（各企業ブースへの延べ訪問数は255）。

・地質系若者のためのキャリアビジョン誌2025の原稿募集、広報を開始した（12/19締切）

3) 生涯教育委員会（矢部）

特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）

特になし

5) 地質の日（矢部）

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会（亀高）

特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）

特になし

3) 表彰制度検討WG（亀高）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし

3) 支部長連絡会議（杉田）

・9/15に支部長連絡会議が開催された。大会開催の折には、可能な限り経費削減に努めて欲しい旨を伝えた。会議では代議員の定数見直しの要望があった。また、シニア会員に対する取り組みについて、様々な意見や要望があった（例：人材バンク、巡査での学生への指導、現在消失した露頭情報の提供など）。

4) 地質災害委員会（松田）

特になし

5) 名誉会員推薦委員会（星）

・2026年度の階層別委員及び理事会代表委員について、来月の執行理事会で報告し、12月理事会へ上程する。

6) 各賞選考委員会（亀高）

・9/6理事会後の打合せで、本年度の委員長を道林克禎理事に決定した。

・2026年度各賞候補者の募集を開始した。応募締切は12月1日（月）必着。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（山口）

特になし

8) 法務委員会（亀高）

特になし

9) 若手活動運営委員会（星）

・若手巡査 in 長瀬・皆野地域（10/18実施）は定員26名に対し、24名参加申込があった。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）

特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし

審議事項

特になし

監事コメント

（山本監事）巡査は大会の主要イベントの一つであり、案内書の公開が大会当日に間に合っていないことはよくない。巡査案内者に会長から委嘱状を出すことで、当人の責任感が増し、提出遅延防止に多少つながるかもしれない。

（岩部監事）巡査案内書は大会までに間に合わせてほしい。案内者にそのことをしっかり理解してもらえる様、繰り返し働きかけでもらいたい。巡査時には、ヘルメット着用を徹底するよう、学会からも案内者にしっかり説明してもらうのが良い。

以上

2025年11月19日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）山路 敦
署名人 執行理事 亀高正男